

「ささやき竹」私注——中世文芸における伝承と世智との接点として——

日本文学論究二二冊

昭和三七・六

篁物語論の立脚点——その再吟味一、二と提案——

解説

昭和三七・一二

篁物語の形成——人物待遇意識と作者の位置とに関連して——

文学・語学二六号

昭和三七・一二

「おさん」への回帰——太宰治における「Home」へのあふろうち——

国学院高等学校紀要五輯

昭和三八・一一

「打聞集」第四話私注——古代仏法祈雨譚における或る下絵の発掘——

国学院雑誌

昭和三九・四

「ふみのてといふもの」他——「篁物語」注釈のうと——

解説

昭和三九・四、五

鎮魂の松山——「阿古屋の松」伝説の分析と実方譚との結合——

民間伝承二八卷三号

昭和三九・八

擬態への執念——太宰治における「母」の位相——

国学院雑誌

昭和三九・九

「冬の花火」の翳——太宰治における「母性」撞着——

太宰治研究（審美社）六号

昭和三九・一〇

「花火」と「哀蚊」の間——太宰治の初期習作群におけるこむみゆにずむの位相——

国学院雑誌

昭和四〇・五

伝説「地主一代」——太宰治の初期習作における〈階級意識〉の位相——

太宰治研究（審美社）七号

昭和四〇・九

太宰治におけるコムニニズムの論点

解釈

昭和四〇・一一

（作家の性意識）堀辰雄／太宰治

国文学解釈と鑑賞

昭和四一・六

「菜穂子」の涯——堀辰雄の作品におけるろまねすく超克の形象——（一）、（二）

国学院雑誌

昭和四一・六、七

「物語の女」改訂の意義——「菜穂子」の理解の指標として——

解釈

昭和四一・七

（日本伝説事典）馬^他（一〇項目）

国文学解釈と鑑賞

昭和四一・一一

阿古屋松の周辺——或る巫女信仰圏の考察——

国学院高等学校紀要八輯

昭和四一・一一

翻案「かげろふの日記」の創作要素

解釈

昭和四一・一二

「鮎の歌」幻の最終章——立原道造晩年の愛の理念——

国学院雑誌

昭和四一・一

「ほととぎす」の常識性

解釈

昭和四一・一二

「たけ高き女」の種姓——堀辰雄の「かげろふの日記」における自己限定——

札幌大学紀要・教養部論集一号

昭和四三・三

「姥捨」で捨てたもの

太宰治研究（審美社）九号

昭和四三・六

「美しい村」の間道——堀辰雄の文学的〈正統〉性についての自己反省のためのヒント——

風信二・三合併号

昭和四三・七

「姥捨」服毒場面の意義——太宰中期の転換の契機として—— 解釈 昭和四三・一〇

信濃へ往く婦^{ツマ}——堀辰雄の方法についての序章——

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要一号 昭和四三・一二

「風立ちぬ」の風景構成——その意識性又は作為性について—— 解釈 昭和四四・二

「美しい村」の虚実——堀辰雄における生活的危機の処理方式——

国学院雑誌 昭和四四・三

「高原」における風土の意味 解釈

「はじめてのものに」における作者の心象 文学・語学五二号 昭和四四・五

「美しい村」の不在証明——虚構性の表明について—— 国学院雑誌 昭和四四・一〇

出羽の中將姫——既成信仰圈に寄生した一つのパターン——

民間伝承三三三卷四号 昭和四四・一二

(編年史・太宰治) 昭和八年／昭和九年 国文学 昭和四五・一

「のちのおもひに」は何を歌ったのか——素材事実と語句解釈の関係——

風信五号 昭和四五・二

「欧州紀行」の発想方式——横光利一のいわゆる民族主義について——

国学院雑誌 昭和四五・五

「魚服記」の解釈——人間関係をめぐって—— (一)、(二) 解釈 昭和四五・六、七

「姨捨」での救拔——粗描・堀辰雄の世界—— 国語と国文学 昭和四五・九

「欧州紀行」の自然観とその後——横光利一の〈民族主義〉の立脚点——

国学院雑誌

昭和四五・一二

初期堀辰雄文学の低音部——「末摘花」をめぐって——

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要二号

昭和四六・三

「曠野」論への序——成立過程の虚実を発端として——

日本近代文学一四集

昭和四六・五

「麦秋」をめぐる堀文学の問題——いわゆる芸術と実生活について——

四季派研究一、二号

昭和四六・九、四七・二

再説「風立ちぬ」の風景構成——杉野要吉氏の錯覚を訂して——

解釈

昭和四七・二

「風立ちぬ」の構成的性格——作中作の設定をめぐって——

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要三号

昭和四七・三

津村信夫の小説志向

四季派研究三号

昭和四七・八

「橋の手前」の資質——芹沢光治良論の基点として——

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要四号

昭和四七・九

「離愁」における保身の構造——芹沢文学の倫理性の発想法——

同

右 五号

昭和四八・三

「萱草に寄す」という発想——立原道造初期の世界——

国学院雑誌

昭和四八・六

「雪の上の足跡」覚書

日本文学論究三三三冊

昭和四八・一一

- (作品の構造) 「富嶽百景」
 国文学
 昭和四九・二
- 主要モチーフからみた堀辰雄
 国文学解釈と鑑賞
 昭和四九・二
- 「ふるさとびと」 試論——「菜穂子」の一収束点として——
 国語と国文学
 昭和四九・二
- 『萱草に寄す』の文脈——「またある夜に」をめぐって——
 札幌大学教養部・女子短期大学部紀要六号
 昭和四九・三
- 立原道造・晩年の愛と生
 国学院雑誌
 昭和四九・五
- 『司祭館』序説——野村英夫の位置と方向——
 同 右
 昭和四九・一一
- 太宰治における戦中と戦後
 国文学解釈と鑑賞
 昭和四九・一二
- (書評) 東郷克美 編 『作品論 太宰治』
 渡部芳紀 編
 同 右
 昭和五〇・二
- 『萱草』考一斑
 四季派研究五号
 昭和五〇・三
- 『萱草に寄す』における少女像の構成
 札幌大学教養部・女子短期大学部紀要七号
 昭和五〇・三
- 「赤い蠟燭と人魚」非再話説一斑
 日本文学論究三五冊
 昭和五〇・一一
- 「風立ちぬ」完結前後
 国学院雑誌
 昭和五〇・一二
- 「菜穂子」と「Thérèse Desqueyroux」の関係
 札幌大学教養部・女子短期大学部紀要八号
 昭和五一・三
- 苦悩の旗手——「HUMAN LOST」 「二十世紀旗手」など——
 国文学
 昭和五一・五
- 「聖家族」・その主題と方法
 国語と国文学
 昭和五一・九

堀辰雄年譜・立原道造年譜に関する二、三の問題

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要九号

昭和五一・九

堀辰雄「幼年時代」・その意識と方法

国学院雑誌

昭和五一・一二一

私読「世界の終り」——福永武彦への一視点——

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要一〇号

昭和五一・三

立原道造・残闕

四季派研究七号

昭和五一・五

(作品の構造)「美しい村」——主題と主人公の設定について——

国文学

昭和五一・七

提言・昭和反戦詩評の再検討

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要一一号

昭和五一・九

昭和反戦詩の評価基準——その偏向と浮薄について——

日本文学論究三七冊

昭和五一・一一

太宰治と自然

国文学解釈と鑑賞

昭和五一・一二一

立原道造「またある夜に」の原像——『萱草に寄す』の一面として——

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要一二号

昭和五三・三

堀辰雄に於ける所謂日本回帰の虚実——并・折口信夫受容の実態——

同

右 一三三号

昭和五三・九

女がたり——「ヴィヨンの妻」を視座として——

国文学

昭和五四・七

存疑・《堀辰雄のフェエドル的体験》説——又は、上條てい女覚書——

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要一五号 昭和五四・九

立原道造にとつての津村信夫 同 右 一七号 昭和五五・九

立原道造に対しての野村英夫 同 右 一八号 昭和五六・三

津村信夫に対しての野村英夫 同 右 一九号 昭和五六・九

(太宰治をめぐる他者たち) 山岸外史 国文学解釈と鑑賞 昭和五六・一〇

立原道造「真冬のかたみに……」のモチイフ——H・フォーゲラーとの関係についての懷疑説——

札幌大学教養部・女子短期大学部紀要二〇号 昭和五七・五

「雀こ」の読みかた 信州白樺五一・五二合併号 昭和五七・一〇

立原道造「何処へ？」の位相——作品本文に即して——

札幌大学女子短期大学部紀要一号 昭和五八・二

立原道造の所謂日本浪漫派接近初期相——「芳賀檀氏へ」まで——

同 右 二号 昭和五八・九

立原道造「はじめてのものに」の典拠と解釈の関係——竹取物語との連続・不連続など——

国学院高等学校紀要一九輯・小林武治先生喜寿記念論叢 昭和五九・三

太宰治「ヴィヨンの妻」の私／檀一雄「火宅の人」の恵子

国文学臨時増刊・現代の女一〇〇人の肖像 昭和五九・三

立原道造「はじめてのものに」のモデルに関する守旧説

札幌大学女子短期大学部紀要五号

昭和六〇・二

太宰治は北海道へ渡ったか——或る《詩と真実》——

同

右 七号

昭和六一・二

存疑・「魚服記」のフォークロア——太宰文字にフォークロアはあるか——

太宰治二号

昭和六一・七

人間失格はなぜ《父の罪》か

札幌大学女子短期大学部紀要八号

昭和六一・九

「斜陽」結尾の混乱——直治の恋人の設定をめぐって——

同

右 九号

昭和六二・二

大庭葉蔵入水因論議私見——太宰治論の交通整理——

同

右 一〇号

昭和六二・九

「菜穂子」年立考——作品読解のための時間的諸元——

同

右 一一号

昭和六三・二

立原道造『萱草に寄す』題名考一斑——田中克己説・小川和佑説の絡みについて——

国学院高等学校紀要二一輯・小林武治先生追悼論叢

昭和六三・三

「花を持てる女」の経歴——作品の読みとして——

札幌大学女子短期大学部紀要一二号

昭和六三・九

(教材研究講座) 堀辰雄の人と作品 1～4 月刊国語教育

平成一・一～四

立原道造「小譚詩」の読解——本文尊重の提唱——

- 「麦藁帽子」の位置と意味—— 札幌大学女子短期大学部紀要一三〇号 平成一・二
 四季派学会論集二集
- 「乙女の港」・その地位の検証——lesbianismの視点ほか、または 八木洋子頌—— 札幌大学女子短期大学部紀要一七〇号 平成二・三
- 川端康成のLesbianismとPederasty——その関連についての懐疑説—— 国語と国文学 平成三・八
- 「花物語」論外篇——一九二〇年代の嫁がされた娘達への誄—— 札幌大学女子短期大学部紀要一八〇号 平成三・九
- 「あきらめ」のもう一つの顔——初出稿から見た異端の愛と悲しみ—— 同 右 一九〇号 平成四・二
- 「春子」と「暁の寺」の間の虚空——三島由紀夫のLesbianismの位相についての一仮説—— 同 右 二一〇号 平成五・三
- 「魔風恋風」・幻の《義姉妹》考——明治貝合小説成立前夜—— 同 右 二二〇号 平成五・九
- 大林清「桜の進軍」覚書——敗戦直前期の『少女倶楽部』連載小説—— 国語と国文学 平成六・九
- 川端康成「乙女の港」略校異——刊本第一〜九章—— 札幌大学女子短期大学部紀要二四〇号 平成六・九

- 福永武彦 「草の花」年立考 同 右 二五号 平成七・三
- 堀辰雄 「燃ゆる頬」雑考——《VITA SEXUALIS》としての二、三の問題—— 同 右 二六号 平成七・九
- 石坂洋次郎 「若い人」時局改訂版ノート——本文改訂の実態と付随する考察—— 札幌大学総合論叢創刊号 平成八・三
- 川端康成・《少女伝説》の終焉——「歌劇学校」以後私観—— 同 右 三号 平成九・三
- 川端康成戦後長篇少女小説私観——少女像の変貌—— 国語と国文学 平成九・六
- 要略・日本近代小説の《貝合せ》——その傾向、あるいは偏向—— 札幌大学総合論叢五号 平成一〇・三
- 堀辰雄参考文献目録補註（重箱の隅もきれいな方が好い） 比較文化論叢（札幌大学文化学部紀要）創刊号 平成一〇・三
- 小説のなかの「エス」の世界 アクタス（北国新聞社） 平成一〇・七
- 福永武彦 「死の島」・who are lovers? 札幌大学総合論叢七号 平成一一・三
- 福永武彦の北海道像——T.F.'s Adventures in Wonderland—— 同 右 九号 平成一二・三
- 増補小説のなかの「エス」の世界 比較文化論叢七号 平成一三・三
- 昭和文学の対incest感覚一斑 札幌大学総合論叢一四号 平成一四・一〇